



93号
2020.7.10



青森県高P連調査広報委員会
題字：八戸高等学校 諏訪内博彦

青森県高等学校PTA連合会事務局
〒030-0113 青森市第二問屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内
TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587
E-mail : akp017si@galaxy.ocn.ne.jp



←「高P連公式HP」QRコードからアクセス!!
<http://www.aomori-koupren.com/>



会長就任のご挨拶

青森県高等学校PTA連合会

会長 田名部 智之

今年度より会長を仰せつかりましたので、

会長就任のご挨拶は自己紹介からにさせていただきます。PTA歴はながく、高校3年生になる長男が幼稚園に入学してから今に至るまで、会長を始め多くの役員を務めさせて頂きました。現在は八戸工業大学第一高等学校PTA会長、市立中学校のPTA副会長と二束のワラジを履かせて頂いております。

幼稚園～小学校～中学校～高等学校、全てのカテゴリーに所属して体感しましたが同じPTAといっても、各カテゴリーそして、各校でも役割や運営手法が異なりますし、公立・私立また普通校と実業校でも考え方が違います。

青森県高等学校PTA連合会は、所属する85校の単位PTAが連絡提携を密にし、PTAの発展と教育の振興を図ることを目的としている訳ですが、他カテゴリーに増して高等学校は考え方の違いが顕著なカテゴリーです。よって連携や情報の共有が重要であり、当会の役割は大きいと感じております。

さて、ここ数ヶ月、世界中で猛威を振るっ

ている新型コロナウイルスの影響により日本の教育を取り巻く状況は一変してしまいました。これまで普通に行われていた卒業式や入学式・体育祭などの学校行事、通常の授業から部活動、インターハイや地方大会等が中止や延期、様々な規制の中で活動を強いられています。我々PTAとしても総会をはじめ役員会も規制され、イベントや行事の予定すらたてられない未曾有の危機となっております。

このような時こそ我々はPTA本来の目的である、子ども達の健全な発達に寄与するべく行動して行かなくてはなりません。特に高校生は就職や進学を控えているので、活動制限により、地域格差や時間的なハンディキャップが発生してはなりません。仮にそれが発生するとしても、その影響を極力軽減させる努力が必要です。

幸い、昨今はICT技術の発達により企業や教育現場においてもテレワークが進んでい

るので、我々もそのテクノロジーを活用しながらコロナ危機をこれからの当会発展の転換に活かして行かなければいけません。

進化論で知られるダーウィンは「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである」と説いています。

当会はリーダーの集まりです。平穏な時は親睦を深める事に重点をおけばよいが、ひとたび異常事態が発生した時にはそれぞれの組織を無事に進めるリーダーシップが我々には求められています。このような時に皆さんと縁を頂きましたので、体は密にせず連絡を密に、各校PTAが停滞することなく運営出来るように連携して参りましょう。

そのために、先輩方が培ってきた良き文化をしっかりと守りながらも、いま起きている危機に対し、スピーディーかつアクティブに適応し「不易流行」の精神を大切にポジティブに当会を運営出来ればと思っておりますので宜しくお願致します。共に頑張りましょう。

県高P連弘前大会が新型コロナウイルスによる感染症拡大防止の観点から開催が中止となりました。
本号では、研究協議において発表を予定していました3校に紙面発表をしていただくことにいたしました。

『生徒の笑顔の名脇役』を目指して 『保護者のサークル活動』

青森中央高等学校PTA会長 成田 輝彦

OPTA活動

本校のPTAは「保護者のサークル活動」をモットーに、①できる時に、できる人が、できる事をやる。②とにかく楽しむ。この2つをベースにPTA活動に関わった事がな
い人でも気軽に活動に参加できるように、活動の自由度を高め、楽しめる工夫をして活動しています。

活動の母体となる委員会は「健全育成委員会」「研修委員会」「広報委員会」の3つがあり、それぞれの委員会ごと
に年間で2〜3の活動を実施しています。以下は令和元
年度の主な活動です。

◆健全育成委員会

「あいさつ運動」6月と10月各3日間朝の登校時に実施しています。参加者は各学年合わせて7名〜13名(平均10名ほど)の保護者の皆さんが参加しています。生徒たちも元氣よく挨拶をしてくれ、笑顔も爽やかで気持ちの良い恒例活動です。



◆研修委員会

8月に「グリーン作戦」と称し研修委員15名の参加者で校内の清掃作業を実施しました。校舎もきれいになり、参加者自身も日頃の運動不足解消と心のリフレッシュもでき

ワクワクが止まらないPTA活動 『ワクワクがPTAの絆を深める』

五所川原農林高等学校PTA会長 山田 真一

本校は明治35年北津軽郡立農学校として開校し、令和4年には創立120周年を迎える歴史と伝統ある学校です。現在、幾多の変遷を経て食品科学科・環境土木科・森林科学科・生物生産科の4学科12クラス、412名の生徒が在籍しております。

教育活動ではグローバル化が進む未来の農林業と関連産業を担う人材育成のため、農業と林業の2つの国際認証を取得(高校全国初)しており、その環境のもとで学習を行っております。認証に向けての準備から、審査の応対まで本校生徒が行っており、その取り組みは県内外からも高く評価されております。

さて、それではPTA活動についてです。本校のPTA活動は保護者に生徒の様子を知ってほしいとの観点から、学校行事と連携した活動が多いことが特徴です。ここでは令和元年度の取組みについてご紹介いたします。

始めにPTA総会についてです。例年、学校公開日(授業参観等)を企画し、その中でPTA総会を実施しております。今回は総会終了後、学校



本校PTA活動(ラウエを支援して) 『連携・協働で進化するPTA』

田名部高等学校父母と教師の会会長 三條目 靖彦

ラウエとは、ドイツの物理学者で、X線の回折縞(ラウエ斑点)の発見によりノーベル物理学賞を受賞しました。そのラウエスポットは田名部高校生の象徴であり、テーマのラウエとは田高生を表しています。

1 おやじおふくろの会

「お父さん・お母さん出番ですよ!」をキャッチフレーズに「おやじおふくろの会」と題して、花壇整備活動を実施しています。玄関前プランターの花植えを行い、車両進入禁止の意味も含め設置し、生徒玄関前に彩を添えました。花の水やりはPTA役員のほか、地域の皆様のお手伝いも頂いています。

2 PTA研修会

今年度で閉科となる英語科の語学研修旅行報告会と親子そば打ち研修会を実施しました。英語での発表に家庭では見られない成長を感じることが出来ました。また、郷土料理であるそば打ちの講師が本校卒業生であり、地域の皆様との連携はPTA活動に欠かせないと確信しました。

3 文化祭(田高祭)屋台出店

PTA最大の活動である田高祭での模擬店出店です。「売り上げは子ども達のために」を合言葉に多くの会員の皆さんが参加します。田高PTAオリジナル「田高(タコ)焼き」は大好評で、毎年進化し続けるPTA恐るべしです。

たようです。活動後は校長先生との談笑もあり、学校での生徒の様子などを聞きながら和気藹々とした時間を過ごされました。9月には「函館研修旅行」を企画し、保護者20名が参加しました。函館では半年間を振り返りながら会員間の親睦を図る良い機会となりました。過密なスケジュールでしたが、皆さん終日笑顔でした。

◆広報委員会

本校の広報紙はコンクールで昨年「優良賞」を受賞し、3年連続の入賞となりました。

ページ数も多く内容も盛りだくさんで読めば青森中央高校のすべてがわかるというくらいの内容になっています。そのため何か行事がある度に、委員たちは取材のため校外を駆け回っています。広報委員会は年2回の広報紙「やしやぶし」の発行と新年度に向けたPTAカレンダーの製作のために活発な活動をしています。

◆青中央祭への参加

(合同活動)

青中央祭では毎年PTAも模擬店を出店し生徒達と共に楽しんでいきます。

この活動にはOB会員が作業の手伝いをする等、現役・引退PTAの垣根を越えた繋がりを感じます。

○おわりに

私たち保護者に出来ることは、子ども達が「笑顔でいられる環境」を整備することだと思います。地域や学校など盛り上がっている処には、必ず笑顔が存在しています。

先に述べたように、私たちのPTA活動も無理せず楽しむスタイルで昨年一年間楽しんで来ました。今年は新型コロナウイルスの影響で先行きは不透明ですが、これまでに無いスタイルでの活動に挑戦しながら「生徒の笑顔」のためにPTA活動を盛り上げたいと思います。もちろん私たちも笑顔で！



加工品(ジャム等)の抽選会を実施するとともに、参加賞として五農みそを配布しました。会員の皆様からも好評で前年よりも30名ほど総会の出席者が増加しました。

次に、農業高校ならではの行事に関わるPTA活動についてです。本校では、学科対抗の全校田植え競技大会や稲刈り競技大会、立佞武多の運行などを実施しています。学科対抗の各競技大会には保護者が多数見学に訪れます。応援や撮影にも力が入ります。また立佞武多の運行補助では、子ども達が安全な運行ができるように、保護者と教職員が導引ロープを張り立佞武多に参加しております。子ども達とともに、地域の祭りを盛り上げることの役割を担っております。五農祭では恒例の餅つきと振る舞いを企画し実施しました。相撲部に餅つきの協力をお願いし、五農産のモチ米でつきあがったきなこ餅は、大盛況でした。

また、学校の敷地が広いことから、生徒の安全を確保するための環境整備も行っております。今回は子ども達が安全に通れるように、遊歩道沿道の木の伐採や枝払いを実施しました。整備後は、五農みその配付と懇親を兼ねた焼肉慰労会を実施し、保護者、教職員の情報交換の場として好評でした。

保護者にとって、学校行事に参加することは普段と違った子供の顔を見られる良い機会だと考えております。本校の学校行事は見所満載なので、ワクワクがつきません。その中でPTA活動を展開することによって、保護者も楽しく活動に参加できるのではないのでしょうか。ワクワクしながら学校に行き、活動から達成感を味わえれば最高ではないかと。

最後に、PTAは子供たちの成長を支える「最強のボランティア組織」と考え、ワクワクがつきない活動を今後も展開できるように、努めて参ります。



4 地域の取り組みについて

地域の人材は地域で育てるという観点から、まさか高校東大・医学部特進コースが平成30年から開始され、本校生徒も多数参加しました。予備校講習会や現役東大生との交流が行われたりするなど、むつ市あげでの取り組みです。地域の悲願であった東大に本校生徒が30年ぶりに合格するという結果に結びつきました。

最後に、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、PTA活動や子供たちの学校生活においても制限がある今日、三年間の集大成として取り組んできたにも関わらず、高校総体中止。クラスメイト全員で思い描いてきた模擬店構想にも関わらず、文化祭中止。数々の不安を抱えて沈み切っているように思えて、悲しい限りです。親として、PTAとして何が出来るか、どうすれば良いかなど、今でなければ解決策を見いだすことが出来ないと思います。今こそ、みんなで考えましょう。みんなで知恵を絞りました。そして、子供たちの笑顔を取り戻しましょう。それが親として、PTAとしての責任だと思います。今がさらなる進化の時。



加盟校紹介

地域に愛され、地域に必要とされる学校を目指して

名久井農業高等学校

本校は南部町に位置し、学科は「生物生産科」、「園芸科学科」（今年度から募集停止）、「環境システム科」で構成されている。校訓である「強く、正しく、明るく、そして責任を持つ」とも、生徒は勉学、研究活動、部活動に励んでおり、園芸作物の栽培や加工品製造、それらの販売実習から、幼稚園や小学生、高齢者を対象とした異年齢交流や体験学習の受入れなど地域に根ざした教育活動を実践している。

◇環境教育活動（緑育心）

昭和46年現在の地に校舎が移転、新しい校地の環境整備のため、緑化・美化のための芝張り、生垣づくり、花木の植栽等を継続的に行ってきた結果、昭和56年学校環境緑化コンクール特選を受賞、その後の活動も認められ、昭和60年緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞を受賞している。現在も5月と10月に「環境緑化の日」を設け、校内の緑化・美化を進めており、48年目を迎える農業クラブ「地区分会活動」では、生徒が利用する青い森鉄道各駅、地域商店街、公共施設等、出身地域の環境美化活動を実施している。

◇研究活動

2年生から行われる専攻班活動では、企業との共同研究（ドローンを使ったリンゴの人工授粉実験、水耕での行者ニンニク栽培）、高大連携（京都大学と雪国向きLED信号機の開発）等も行っており、研究の成果は、農業クラブの大会のみならず、さまざま

まなコンテストにも出している。最近の主なものとして、2018年ストックホルム青少年水大賞国際大会で準グランプリ、2019年第26回コーカ・コーラ環境フォーラム次世代支援部門で文部科学大臣賞、第5回現代ビジネスプラン・コンペ2部門（地域活性化プラン・ビジネスプラン）で最優秀賞、第63回全国学芸サイエンスコンクールで内閣総理大臣賞を受賞している。また、2019年に提案した「乾燥地の土壌流失抑制の食料増産を可能にする多機能集水技術の開発」研究は2020ストックホルム青少年水大賞国際大会（残念ながら今年度はスウェーデンでの開催は中止）の日



ドローンを使ったリンゴの人工授粉実験

本代表に内定している。

本校は南部町や地域の方々、企業、大学、保護者等のご支援・ご協力により、様々な教育活動ができる環境があり、大変感謝しています。これからも地域に愛され、地域に必要とされる学校になれるような教育活動を行っていきたく思っております。

我がPTA

生徒のための活動は保護者の成長の糧となる

五所川原第一高等学校 広報委員長 工藤 扶美子

本校は平成30年度に創立70周年を迎え、現在のPTA活動には、学年、研修、健全育成、そして広報と4つの委員会がありますが、私は広報委員となったことで、PTA活動に携わることになりました。年3回のPTA新聞の編集・発行に関わり、学校行事や生徒の特別活動、PTAの各委員会の活動などの記事を取りまとめる中で、自然とPTA活動とはどのようなものであるかを知ることができました。

具体的なPTA活動の内容について紹介すると、この一年間の記事では男女を問わずに構成されている研修委員会の活動がより充実していたように思いますので、その活動の一部を昨年度の研修委員長よりPTA新聞に提供された記事を参考に紹介いたします。

研修委員会活動では、6月に体育祭で生徒へアイスを提供したところ、みんな遠慮せずに美味しく食べていました。7月には継続して参加している一高祭（文化祭）での模擬店で、串揚げ、アメリカンドッグ、揚げたこ焼きが予想以上に売れて完売でした。9月には西北地区協議会・研修委員会主催の地区研修会があり、花輪敏男氏により「高校生の発達障害の理解と対応」について話され、本場に「ためになる」お話を聞くことができました。10月には校内競技大会で、生徒から揚げを差し入れました。11月には本校のPTA・後援会合同の研修会が開催され、テーマが「津軽の魅力再

発見」ということで、弘前市内で下川原焼鳩笛制作やハーバリウム作りを体験しました。その後の研修委員会の反省会では、それぞれが楽しかったこと、苦労したことなどの話で盛り上がり、次年度の活動へ向けてエネルギーを蓄えるとともに、充実・成長した1年となったようです。



参加者制作のハーバリウム（合同研修会）

健全育成委員会では昨年度、五所川原プロックの事務局として、「奥津軽虫と火祭り」と「立佞武多まつり・前夜祭」で巡視活動を行い、その後の健全な情報交換会が大いに盛り上がり、と聞いています。

今年度の委員会活動は、感染症対策の為、PTA活動や生徒の特別活動等、ほとんどの活動が出来ないことが予想されます。同時に、本校のPTA新聞の掲載記事の情報収集にも影響があると思われる頭痛いところですが、可能な限り情報収集に努め、充実した紙面となりますよう、力を尽くしたいと思います。

編集後記

例年、この会報「つながり」では、PTA連合会大会や部活動の紹介を通じて、青森県のPTA活動や加盟校の様子をお伝えしていましたが、今年は新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が出され、全国的に長期臨時休校となったため、部活動をはじめ、新年度のPTA活動が行えづらい学校が多い事かと思えます。この「つながり」の発行も危ぶまれましたが、皆様のご協力を得てページ数を少し減らし、無事に発行する事が出来ました。

原稿の協力をいただいた皆様、誠にありがとうございました。次号原稿を依頼された方は是非ご協力の程、宜しくお願いたします。

（調査広報委員長 竹村 智美）



本会が令和元年度に給付した共済金を傷病別、部位別に分析すると下表のとおりとなっています。傷病別では、靭帯損傷・断裂が145件、骨折が141件となっています。部位別では下肢部が316件と約7割を占めています。また、重傷化に伴い給付金額では5万円が15件、4万円台が40件、3万円台が41件、2万円台が67件となっています。近年、治療の長期化や同じ生徒が完治せぬまま異なる負傷を負うなど、重傷化傾向もみられます。

特に運動部活動中の怪我は限られた高校スポーツの貴重な時間を棒に振ってしまいます。生徒の皆さんには充実した高校生活を送っていただきたいと願っております。

令和元年度 収支決算書

■収益の部

(単位:円)

科 目	予 算 額
経常収益	18,655,417
うち会費収入	18,546,900
うち雑収入	12,746
うち普通支払備金	95,771
経常外収益	0
収益の部合計 (a)	18,655,417

■費用の部

(単位:円)

科 目	予 算 額
経常費用	20,817,962
事業費	17,801,405
うち学校安全普及事業費	512,730
うち共済金等給付事業	7,939,212
その他の事業費	9,349,463
管理費	3,016,557
経常外費用	0
費用の部合計 (b)	20,817,962

(単位:円)

正味財産期首残額	139,269,309
当期増減額(a)-(b)	-2,162,545
正味財産期末残額	137,106,764

令和元年度 負傷種類別データ

骨 折	鼻	腰	足首	足	手・腕	顔	鎖骨	
	16	13	24	40	32	7	9	141
捻 挫	肩	足	手					14
	2	10	2					
脱 臼	肩	膝	手・腕	足				30
	11	11	4	4				
打 撲 挫 傷	目	鼻	口	足	腰	手	頭	21
	3	1	1	11	1	1	3	
創 傷	-							4
	4							
靭帯損傷 断 裂	膝	肘	手	足				145
	126	1	5	13				
半月板 断 裂	膝							56
	56							
腱損傷 断 裂	指	アキレス 腱						8
	1	7						
歯牙破損	-							3
	3							
その他 負 傷	-	ヘルニア						48
	43	5						
								470

令和元年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業費(助成金)	512,730円
(1) 地区協議会安全教育活動費	212,730円
(2) 県高等学校体育連盟	100,000円
(3) 県高等学校文化連盟	100,000円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金等給付事業費	7,939,212円
(1) 死亡共済金	0件 0円
(2) 後遺障害共済金	0件 0円
(3) 負傷共済金	425件 7,839,212円
(4) 香料	2件 100,000円

3 その他事業費	280,290円
(1) 安全互助会だより53号	55,890円
(2) 安全互助会だより54号	56,100円
(3) 安全互助会の手引印刷代	63,800円
(4) 新入生保護者用リーフレット印刷代	104,500円

青森県高等学校安全互助会加入生徒数	
全日制	30,429名
定時制・特別支援学校	1,043名
通信制	288名
総数	31,760名

理事長あいさつ

本会は、昭和49年に設立され会員相互の助け合いによって、日本スポーツ振興センター給付金の不足を補い、医療費等、会員の負担を軽減すると共に、学校における安全な教育活動の実施に寄与することを目的として設立されました。本会は共済金の支払いはもとより、生徒が安全に活動できるよう各種団体への助成など社会的にも大きな貢献を果たしております。今後とも皆さんのお役に立てる共済制度の運営に努めてまいりたいと考えておりますのでご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



理事長
大溝雅昭

令和2年度 収支予算書

■収益の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常収益		18,263,000
うち会費収入		18,253,000
うち雑収入		10,000
うち普通支払備金		0
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		18,263,000

■費用の部

(単位：円)

科	目	予算額
経常費用		22,435,000
事業費		19,371,000
うち学校安全普及事業費		600,000
うち共済金等給付事業		9,001,000
その他の事業費		9,770,000
管理費		3,064,000
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		22,435,000

(単位：円)

正味財産期首残額	137,106,764
当期増減額(a) - (b)	-4,172,000
正味財産期末残額	132,934,764

令和2年度 役員名簿

■理事・監事

職名	氏名	所 属
理事長	大溝雅昭	青森県高等学校PTA連合会 元顧問
理事	穴倉慎次	青森県立青森高等学校長 青森県高等学校長協会長
理事	越田宏治	青森県立青森東高等学校 前PTA会長
理事	三上雅也	青森県立青森商業高等学校長
理事	益川毅	青森県立三本木高等学校 元PTA会長
理事	千代谷均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監事	沼尾冬樹	青森県立十和田西高等学校 前PTA会長
監事	對馬祐之	青森県立三沢商業高等学校 前校長

■評議員

職名	氏名	所 属
評議員	藤澤重信	八戸工業大学第一高等学校長
評議員	吉田錦一	青森県立大湊高等学校 前PTA会長
評議員	三浦基	青森県立青森高等学校 前PTA会長
評議員	木村真紀子	東奥義塾高等学校PTA会長
評議員	秋田谷誠	五所川原第一高等学校 元PTA会長
評議員	下山昌一	青森県立青森西高等学校 元渉外主任

令和2年度 事業計画

1 学校安全普及充実事業費(助成金)	600,000円
(1) 地区協議会安全教育活動費	300,000円
(2) 県高等学校体育連盟	100,000円
(3) 県高等学校文化連盟	100,000円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金等給付事業費	9,001,000円
(1) 死亡共済金	
(2) 後遺障害共済金	
(3) 負傷共済金	
(4) 香料	

3 その他事業費	300,000円
(1) 安全互助会だより55号	60,000円
(2) 安全互助会だより56号	60,000円
(3) 安全互助会の手引印刷代	65,000円
(4) 新入生保護者用リーフレット印刷代	115,000円

青森県高等学校安全互助会加入生徒数	
全日制	29,014名
定時制・特別支援学校	1,029名
通信制	322名
総数	30,365名